

第3回気候変動を踏まえた庄内川下流部の対策検討会 概要

開催日: 令和2年12月17日(木)

- 整備計画河道、基本方針河道において、気候変動を考慮した外力に対する被害ポテンシャルを確認。また、整備完了後でも、気候変動を考慮した外力については、洪水を安全に流下させることはできないことを確認。
- 気候変動を考慮した外力に対しては、河道掘削による河積確保をはじめ、気候変動により増大する流出量を下流側に増やさない地下放水路等の洪水調節施設の整備も含めた検討を行う必要があることを確認。
- 庄内川流域における気候変動を考慮した外力について、降雨量の単純な引き延ばしではなく、d4PDF等のアンサンブルデータを活用した検証の方向性、課題について確認。

【委員名簿】 (敬称略、五十音順)

赤堀 良介	愛知工業大学	准教授
武田 誠	中部大学	教授
◎辻本 哲郎	名古屋大学	名誉教授
富永 晃宏	名古屋工業大学	教授
原田 守博	名城大学	教授
松尾 直規	中部大学	名誉教授

◎座長



検討会の様子

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、委員はWeb会議方式で出席

【委員からの主なご意見】

- 基本方針等の整備目標を決定する際の対象洪水を用いた検討とは別に、気候変動のシナリオを考慮した外力に関する議論を進めていくことが必要。
- d4PDF等のアンサンブルデータを活用した外力の検討は、降雨の確率分布とパターンの検討を行う必要があり、併せて流域としての妥当性の確認が必要。
- 考えられる対策について、単独の対策では対応できず、色々な対策の組み合わせの検討が必要。
- 地下放水路等の洪水調節施設について議論をする際に、内水対策についても考慮していくべき。

【検討の流れ】

第1回検討会(令和2年5月18日開催)

- 検討会の位置づけ、進め方について
- 庄内川の概要
- 庄内川の課題

第2回検討会(令和2年10月22日開催)

- 庄内川での気候変動の状況
- 庄内川で想定される将来外力による被害
- 考えられる対策について

第3回検討会(令和2年12月17日開催)

- 整備計画河道、基本方針河道における被害状況
- 気候変動による外力について
- 考えられる対策について
- 現検討状況のまとめと今後の課題

第4回検討会(令和3年春開催予定)

- 気候変動を踏まえた外力検討の現状報告
- 実現可能な治水対策案検討内容についての議論

※検討会の議論内容により変わる可能性あり